

(表中敬称略)

会議名	リカレント教育プログラム開発部会（令和３年度第１回）		
日 時	日時：令和３年７月９日（金）10:30～12:00		
場 所	オンライン（Zoom ミーティング）		
出席者（計８名）			
カテゴリ	所属（学校等・部門・部署）	役職	氏名
オンライン出席者（計15名）			
産	西日本高速道路株式会社	関西支社 構造担当部長	◎佐溝 純一
産	一般財団法人橋梁調査会近畿支部	近畿支部長	別木 孝
産	国土交通省近畿地方整備局企画部	技術調整管理官	増田 安弘
学（連携校）	長岡工業高等専門学校	准教授	○陽田 修
学（連携校）	福井工業高等専門学校	教授	辻野 和彦
学（代表校）	舞鶴工業高等専門学校	教授・社会基盤メンテナンス 教育センター長	玉田 和也
学（協力校）	長岡技術科学大学	准教授	宮下 剛
学（連携校）	放送大学学園	企画係長	東海林壽朗
事務局	福島工業高等専門学校	特命助教	浅野 寛元
事務局	長岡工業高等専門学校	助教	白井 一義
事務局	長岡工業高等専門学校	特命助教	丸山 聡
事務局	福井工業高等専門学校	特命助教	宮川 清剛
事務局	舞鶴工業高等専門学校	特命准教授	嶋田 知子
事務局	舞鶴工業高等専門学校	特命助教	掛 園恵
事務局	香川高等専門学校	助教・社会基盤メンテナンス 教育センター副センター長	入江 正樹
◎：部会長 ○：副部会長			
議事次第			
１．はじめに 舞鶴工業高等専門学校 建設システム工学科 教授 玉田 和也			
２．部会長挨拶 西日本高速道路株式会社関西支社 構造担当部長 佐溝 純一 様			
３．リカレント教育プログラムの検証について（報告）			
４．リカレント教育プログラムの開発について（審議）			
・専門特修講座【建設ＩＣＴ】の開発状況			
・橋梁診断技術者認定講座【橋梁診断】の開発状況			
・橋梁診断技術者認定試験の出題・評価方針（案）			
５．リカレント教育プログラム開催計画について（審議）			
６．まとめ			
７．その他（今後の予定，事務連絡等）			
			以上



写真 6.3.1 舞鶴高専 玉田先生挨拶



写真 6.3.2 佐溝部会長挨拶

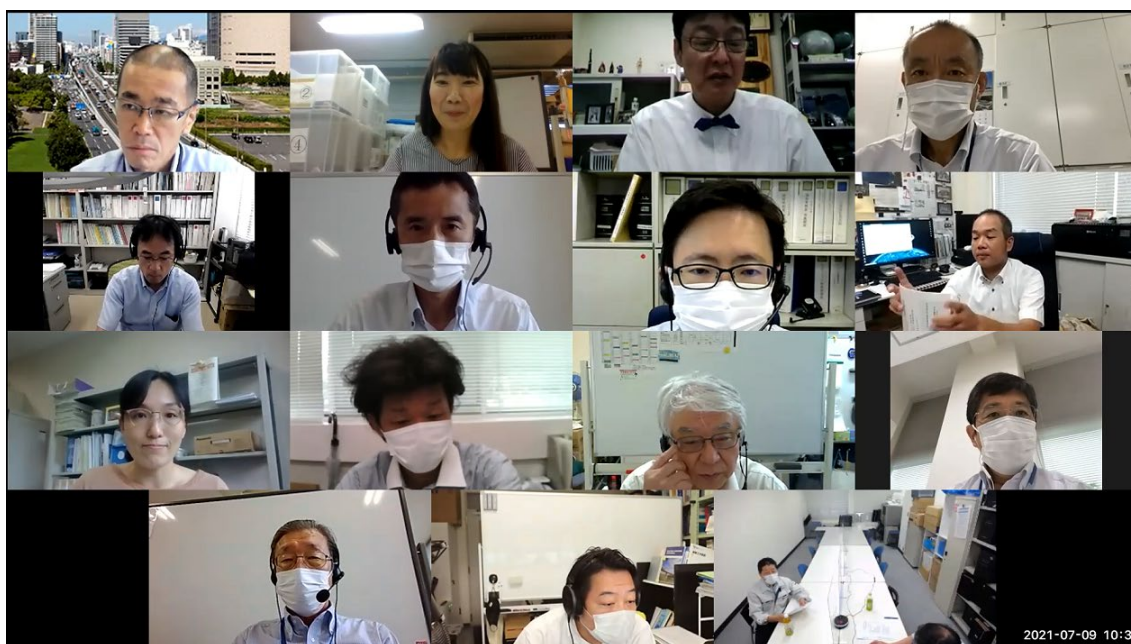


写真 6.3.3 オンライン参加者

リカレント教育プログラム開発部会 議事録

リカレント教育プログラム開発部会（第1回）議事録

日時：令和3年7月9日（金）10:30～12:00

場所：オンライン（Zoom ミーティング）

1. はじめに 舞鶴工業高等専門学校 建設システム工学科 教授 玉田 和也
2. 部会長挨拶 西日本高速道路株式会社関西支社 構造担当部長 佐溝 純一 様
3. リカレント教育プログラムの検証について（報告）
 - ✓ オンラインと対面を効果的に組み合わせたコンテンツとして、引き続き実証講座での検証および改良を進めていく方向で良い。
4. リカレント教育プログラムの開発について（審議）
 - ・専門特修講座【建設ICT】の開発状況
 - ✓ 若手技術者が建設ICTを学ぶことは重要である。
 - ✓ ICT技術の発展に伴うコンテンツの更新は、今後の課題である。
 - ✓ AIの理解を確認する際、試験問題で何を問うかは検討が必要である。
 - ✓ 当該講座で学ぶ最新技術を実務にどのように活用するかについては、ディスカッションを通じて学んでいただきたい。
 - ・橋梁診断技術者認定講座【橋梁診断】の開発状況
 - ✓ 診断から措置までに時間がかかることを想定し、判定結果の根拠となる内容は、調書に理路整然と記述し伝える必要があるため、調書作成も重要である。
 - ✓ 橋梁診断技術者が、診断結果として、“なぜその判定なのか”を道路管理者へ説明するプレゼンテーション力は重要であることから、学修到達度確認試験においても、プレゼンテーションは重要な評価項目である。
 - ✓ 健全性の判定や診断結果は、地域や点検・診断担当技術者の主観によるバラつきがあり“平準化”の課題であるため、何を基準に評価するかは検討が必要である。
 - ・橋梁診断技術者認定試験の出題・評価方針（案）
 - ✓ 学修到達度確認試験の合格水準 80 点を設定する場合、プレゼンテーションや記述式問題等を適切かつ効果的に活用し、評価すること。
5. リカレント教育プログラム開催計画について（審議）
 - ✓ 今後も新型コロナウイルス感染防止に最大限配慮し、開催の方向で進める。
 - ✓ 開催結果はHP等で公表する。
6. まとめ
 - ✓ 佐溝部会長より部会報告を行う。
7. その他（今後の予定、事務連絡等）

以上